

製品名: IL-27A ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12542**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	IL27 IL27A
別名	Interleukin-27 subunit alpha (IL-27 subunit alpha; IL-27-A; IL27-A; p28)
遺伝子 ID	246778.0
SwissProt ID	Q8NEV9
免疫原	AA 範囲: 1-50 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

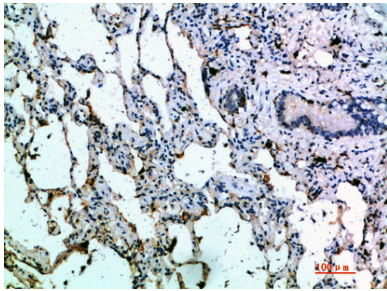
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ヘテロ二量体サイトカイン複合体のサブユニットの一つです。このタンパク質はインターロイキン 12A (IL12A) と関連しています。インターロイキン 12B (IL12B) に類似したタンパク質であるエプスタイン・バー

ウイルス誘導遺伝子3 (EBI3) と相互作用し、ナイーブ CD4(+) T細胞の急速な増殖を促進する複合体を形成しますが、メモリー CD4(+) T細胞には影響を与えません。また、この複合体はインターロイキン 12 と強い相乗作用を示し、ナイーブ CD4(+) T細胞におけるインターフェロンガンマ (IFNG) 産生を誘導することが分かっています。このサイトカインの生物学的作用は、クラス I サイトカイン受容体 (WSX1/TCRR) を介して発現します。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: 炎症誘発性および抗炎症性の特性を持つサイトカインで、ヘルパー T細胞の発達を制御し、T細胞の増殖を抑制し、細胞傷害性 T細胞の活性を刺激し、B細胞でアイソタイプスイッチを誘導し、自然免疫細胞に多様な効果をもたらします。標的細胞には、タイプ 1 エフェクター細胞 (TH1)、タイプ 2 エフェクター細胞 (TH2)、IL-17 産生ヘルパー T細胞 (TH17) に分化できる CD4 ヘルパー T細胞があります。ナイーブ CD4 T細胞のクローン増殖を急速に促進しますが、メモリー CD4 T細胞のクローン増殖は促進しません。また、IL-12 と強い相乗作用を示し、ナイーブ CD4 T細胞のインターフェロンガンマ/IFN ガンマ産生を誘発し、IL-27 を介したシグナル伝達に必要なものであるものの十分ではないと思われるサイトカイン受容体 WSX-1/TCRR に結合します。IL-27 は、TH1 応答の初期段階を増強し、TH2 および TH17 の分化を抑制します。これは、p38 MAPK/TBX21 依存性経路と ICAM1/ITGAL/ERK 依存性経路という 2 つの異なる経路を介して TH1 細胞の分化を誘導します。また、STAT1、STAT3、STAT4、STAT5 のリン酸化を誘導し、STAT1 を介して TBX21/T-Bet を活性化し、結果として TH1 細胞のコミットメントに重要なイベントである IL12RB2 の上方制御を引き起こします。また、TH1 細胞の発達を阻害する GATA3 の発現を抑制します。CD8 T細胞では、STAT に加えて GZMB も活性化します。IL-27 は、TH17 細胞の発達と IL-17 産生の強力な阻害剤であることが明らかになっています。実際、IL-27 サブユニット p28 単独でも、CD4 および CD8 T細胞による IL17 の産生を阻害することができます。IL-27 は STAT1 を介して炎症誘発性 Th17 細胞の増殖を抑制する一方で、STAT1 とは独立して抗炎症誘導性制御性 T細胞 (iTreg) の増殖を阻害します。IL-27 はサイトカイン産生にも作用し、IL2、IL4、IL5、IL6 などの炎症誘発性サイトカインの産生を抑制し、SOCS1 や SOCS3 などのサイトカインシグナル伝達抑制因子を活性化します。サイトカイン産生の抑制に加え、IL-27 は T細胞に直接作用することで、IL6 などの一部のサイトカインの作用を拮抗します。IL-27 のもう一つの重要な役割は、抗腫瘍活性と、IP-10/CXCL10 や MIG/CXCL9 などの抗血管新生ケモカインの産生を活性化する抗血管新生活性です。静脈内皮細胞において、IRF1/インターフェロン調節因子 1 を誘導し、MHC クラス II トランスアクチベーター/CIITA の発現を増加させ、結果として主要組織適合性複合体クラス II の発現を亢進させる。IL-27 はまた、HIV-1 複製を阻害する抗ウイルス活性も示す。誘導: 単球において LPS 刺激によって一過性に誘導される。オンライン情報: インターロイキン-27 のエントリー、PTM: O-グリコシル化されている。類似性: IL-6 スーパーファミリーに属する。細胞内局在: EBI3 との共発現なしには分泌されないと考えられる。サブユニット: IL27B/EBI3 とのヘテロ二量体。IL-27 は IL27 と EBI3 からなるヘテロ二量体である。EBI3 は IL-12 ヘテロ二量体の構成要素でもある。組織特異性: 単球および胎盤で発現する。、

研究分野

画像データ



パラフィン包埋ヒト肺の免疫組織化学分析、抗体は 1:200 に希釈された